

平成 30 年度 第 1 回基幹公共交通部会 議事録

I 日時等

1. 日 時：平成 30 年 8 月 3 日（金）午後 1 時 30 分～午後 3 時
2. 場 所：熊本市役所 議会棟 2 階 議運・理事会室

II 主な内容

1. 開会

2. 部会長挨拶

3. その他

① メインターミナルの換気シミュレーションについて

（部会長）

・議事の進行上、「4. その他 メインターミナルの換気シミュレーションについて」を先に説明させていただきたい。

・メインターミナルの進捗状況については、昨年 11 月に開催された基幹公共交通とバス路線網再編の合同部会において報告があったところ。その際、メインターミナルの換気シミュレーションについて設計上の数値を出していただいたところであるが、一般市民にも具体的に分かるようなイメージで示してほしいという意見があり、今回の部会で再度報告をしていただくもの。

（九州産交ホールディングス）

・「参考資料：メインターミナルの換気シミュレーションについて」を説明

（部会長）

・ターミナル内のバスは動いているということで、実際にはシミュレーション結果よりももっと希釈されるという話である。今後は、ファンの位置等を再整理して、さらにまだ希釈状況をよくするということである。

実際運用していくときに、安心して開業を迎えることができると思うし、乗降場(建屋内)については、乗る人は空気の圧で排気ガスの影響を受けないという考えでよいか。

（九州産交ホールディングス）

・乗客との間ではバスゲート形式として、完全に建具で遮断された形をとっており、乗降するときに扉が開いて乗っていただく形となっているので、その扉が開いた時

に乗降場側からは加圧させて車路側に出して、排気ガス等が中に入らない環境になっている。

(部会長)

・素人的には扉が開いたら排気ガスが入ってくるのではないかと、車が多いと扉が開きっぱなしになるのであまり効果がないのではないかと考えるが、そういう心配はないということである。

4. 議事

① 市電の現状と課題等について

(事務局)

・「資料：市電の現状と課題等について」説明

(部会長)

・歴史から現状について、ICカードの導入以降利用者が増えている実情についてもお話をいただいた。これについて順不同で構わないので忌憚のない意見をいただきたい。今日いただいた意見を基に次回に向けて更に内容を深めていきたいと思っている。

(委員)

・電停改良について、今年度2箇所ということだが、今後残りの電停の計画はどのようなになっているのかということと、電停の屋根の設置についてお聞きしたい。

また、軌道の緑化について、今後延伸についての計画があるのか。

(事務局)

・電停改良について、今年、河原町と通町筋を行い、辛島町電停の設計を計画している。その次の段階になると、道路環境等の条件もあり、現時点では未定という状況である。

・屋根の設置について、電停改良に伴い屋根の設置も同時に行っているところである。既存の電停については狭い電停ばかりであり、屋根を設置するための柱や壁を作ってしまうと電停としての機能を維持できないので、既存の電停の状態での屋根の設置は物理的に難しいところである。屋根の設置については、電停改良に併せて行っていく。

・軌道緑化について、基本的に中心市街地活性化基本計画の位置づけの中で水道町から熊本駅まで含めたところで事業を行っている。ただし、軌道が道路の中央にあり、民地への右折横断が問題となってくるので、そのような環境が整うような場所

が選定されている状況で、これから先を延ばすということは難しい。

(委員)

・バスの利用者が減っていて、市電もピーク時に比べると減っている。以前に比べて便数は減っているのか。

(事務局)

・便数については、以前と比べてほとんど変わっていない。ただし、朝のラッシュ時間帯は以前に比べて、健軍町、新水前寺駅前への便数を増やしている。

・昼間の利用者数が少ない時間帯については便数を減らしており、全体としては変わっていないが、朝や夕方ラッシュ時に特化したダイヤを編成している状況。

(委員)

・便数が減ると乗るほうも不便感があるので、利用促進という意味では便数を確保していただいて、減らない方向で頑張っていたきたい。

・バス事業では乗務員の確保が難しいと聞いているが、運行を保証するというところで熊本市電の乗務員確保の取組みは十分できているのか。

(事務局)

・乗務員の確保として、年に2回運転士の国家試験が実施されており、それに併せて乗務員の募集を行っている。

(委員)

・募集に対して人員は確保できているのか。

(委員)

・4~5年前までは、募集定員に対して2~3倍の応募はあったが、だんだん募集しても応募がなく、募集定員に達していない現状がある。実際に、運転士の確保が課題の一つとなっている。

(委員)

・処遇の面の課題があるのか。

(委員)

・色々分析して見る必要があるが、処遇の面もあると思う。震災後、他の業種に労働者が流れているところもある。処遇改善も併せて考えていく必要があると思う。

(委員)

・人員の確保が大事であるが、嘱託であるとか正規ではない職員の割合が多く、このままいけば運転士が全て非正規となりかねない状況。将来的に熊本市電を維持していく上で、もう少し正規職員を確保していく取組みが必要であると思うが。

(委員)

・これは一番大きい課題であると認識しており、将来に市電を残していくための人員体制について現在考えているところである。

(委員)

・今の嘱託職員は何年間雇用できる等の期限はあるのか。

(事務局)

・基本、1年毎の更新になるが、面接やそれまでの運転士の資質等人事評価が良好な運転士は継続して雇用をしており、長い方で12年運転士として勤めている方がいる。

(部会長)

・本日議論していただいた内容について、今後の課題として持ち帰って検討していただきたい。特に雇用条件の問題、それから乗務員募集の問題、新卒と若手の方の雇用の問題、これらは賃金の問題も出てくるので、併せてお願いしたい。

・その他、朝夕のラッシュ時の対応について、車両の便数を増やしているということだが、まだ健軍町、新水前寺駅前等での積み残しの問題が残っているので、具体的に積み残しがどの程度あってどういう風に改善したのかということをお知らせいただきたい。それと、JRとの結節で当然利用度は上がっているが、その効果で利用者がこのまま増えていったら、新水前寺駅前のところはどうなるのか、という逆の心配もあるので、その点もお願いしたい。その他、何かないか。

(委員)

・今後利用促進という意味でも低床電車が多いといいなと思うが、結構古い型の電車もあるが、車両の更新はどのようにしていく予定があるのか。

(事務局)

・車両の更新について、今年度から来年度にかけて超低床電車として最初に導入した9701号車をリニューアルするところである。その他に古くなった低床車についても、車両の購入も含めて、長寿命化の考え方で更新計画を考えていきたい。

(部会長)

・それについても、どのようになるのか漠然とした数字でいいので、こういう風に増えていくとか、そのあたりの見通しがでてくればと思う。

(委員)

・機能強化の説明があったけれども、全体の公共交通網というものを考えると鉄軌道を基軸といいながら、どういう形で有機的に結びつけて、なおかつ、バスの役割は何なのかとか、乗り合いタクシーもあるだろうし、全体の中で今後市電をどうしていくのかという視点がなかったように思う。

(部会長)

・これまで協議会において市電の話がすっぱり抜けていたため、市電のところを今日おさらいも含めて提起をさせていただいている
・バスとの関係は当然出てくる。今市電と並行しているバスをどうしていくのか。そしてフィーダーとして健軍から先のところのつなぎをどうするのか。そういう課題もあるので、その点も含めて事務局から提案していただくことにしたい。
その他、意見等はないか。

(委員)

・ひとつ思っているのは、バスはどこも利用者が減ってきている。ICカードを作ってもそれで利用者が増加しているということはない。しかし、一方で市電はこの5年ぐらいで利用者が増加している。私どもは短いながら鉄道もあり、全国の中小私鉄では一番伸び率が高い。公共交通を考える中で、鉄軌道は定時性、速達性があり、利用者が増えている。一方、バスは色々策は練られているけれども、本質的なものにつながっていない。その差がでているのかなど。鉄軌道が少しずつよくなってきている現状というものが、一つの大きなポイントではないかと思っている。

(部会長)

・鉄軌道を中心という位置づけの部分は変わりはないけれども、ここを更に改善をして、バスとの連携を考えるということが必要になる。

(委員)

・市電の延伸についてほとんど触れられていないが、多額の費用をかけてやるという体力が基本的に交通局にあるのか。先程電停改良の話もあったが、中々お金が掛かってできないという課題を抱えている中で、この市電の延伸に対する交通局の考えをお聴きしたい。

(委員)

・市電の使命として持続可能な基幹公共交通として運行していくため、更なる機能強化は必要であると考えているが、それには多額の経費が必要となる。それをいかに独立採算で賄えるのかを今まさに検討している状況である。市電の延伸に対する交通局の考えということであるが、この延伸については、関係部署と連携し別途その必要性も含め検討しているところであり、現時点で交通局の見解を示せる状況ではないことをご理解いただきたい。

(委員)

・市電の延伸は、市民全体の議論になっていないのではないかという気がしており、交通事業として熊本市としても大きな節目になると思うので、問題提起も含めてあえて触れさせていただいた。

(部会長)

・市電の延伸については、市民の関心も非常に高いと思うが、実施をするかどうかは議会で議論を詰めていただいて、延伸が決まればこちらのほうでも議論をしていきたいと思う。

・今までの流れで言うと、独立採算制のところではバスも市電も赤字、バスについては民間に移譲、電車は残してきたが、どちらにしても赤字のところを税金で補って維持してきたという歴史的な経緯がある中で、それを更にどう充実していくかという話である。

・電停改良について、現在改良を行っている2箇所の電停の他の電停はどうなるのかという問題はある。交通弱者には乗りにくい、使いにくいであったり、利用者が増加すると待っているだけでも長蛇の列で、危険を感じながら使わなければならないという状況もあるので、そのような物理的なものをどうやって克服していくのか、色々な知恵を出していただければと思っている。

(委員)

・利用者の立場で話をさせていただくと、運用上の問題として、乗務員により差がある。例えば、新水前寺駅前ではJRと結節しているが、JRの利用者が来る前に発車してしまう、交差点で信号が赤になると分かっているが、信号が赤に変わるのであればもう少し電停にいていただいて、できるだけ乗客を乗せていただくような工夫、乗務員によってはそのように運用している方もいるが、運用の仕方を努力していただきたい。

・できれば終電の時間を延ばしていただけると、もう少し街にとどまる人数が増えるのかなと感じる。

・通町筋電停で電車が電停の先のほうに止まるが、利用者が多いときには電停を外れて車道にまで並んでいる。もう少し電停の中ほどから後ろの方に停止をしていただいて、可能な限り利用者が電停内で待てるような状況を作っていただければ、電停をはみ出して並ぶ方も若干減るのではないか。

・今後、桜町再開発施設が完成し、市のコンベンションを考える中で、電停を改良するにあたっては、色々な施設との関連を含めたところで、まとめられるところはまとめる、新設するところは新設すると考えていかれたらと思う。

(部会長)

・これからの街づくりの拠点として、電停をどうするのかという話も当然出てくるので、それも考慮していただきたい。

(委員)

・路面電車優先システムについて、承知しておいていただきたいことがある。これは、公共交通機関の優先システムであり、信号機に車両が近づいてきたときに、青信号であれば少し延ばす、赤信号であれば少し短くするという形で、主体としている車両を優先的に青信号の時間を与えていくというシステムである。熊本駅から辛島町までが市電の路面電車優先システムがついており、その先がついていない理由について、バス事業者もこのシステムを利用しており、台数的には圧倒的にバス事業者の数が多く状況である。その中で、バス事業者が使っている優先システムと、市電が使っている優先システムは、当然、信号機は同じ信号機なので、これを混在させてしまうと、優先システムを設置している路線だけが優先的に車両が流れてしまうことになる。交差点なので脇からくる車もあるが、そこに負担を掛けてしまう。そういうことがあり、どうしても棲み分けをしている状況である。

(部会長)

・いくつか議論がでたので、すぐできること、将来的な問題とあるが、それを踏まえて次回もう少し詰めた議論をしたいと思う。

・電車についての議論がなかったもので、空白を埋めるということと、新しい交通システム、公共交通の中での市電の位置づけということで、議論を重ねていくが、当然今までのバスの問題も残っているので、それとの兼ね合いも含めて事務局からないか。

(事務局)

・先程委員の方から、公共交通全体のネットワークの話があったが、今回の部会では市電に特化した話を議論したいと思っていたが、バスであるとか他の公共交通と

の結節などを含めた形で進めていく必要があり、特に市電の機能強化と併せて実施する必要がある取組みについては、次回改めて示していきたい。それから、委員の方から意見をいただいた市電の延伸については、今年度検討を深めていく取組みを実施している状況であり、これについては交通管理者等との協議もあり、議会のほうできちんと報告させていただいた上で、改めて延伸を実施する方向であれば協議会もしくは部会で報告をさせていただいて、延伸するのであればより効果的なものにしなければいけないと思っているので、その部分についての意見をいただきたいと思っている。

(部会長)

- ・今日、いくつかでた議論を踏まえて次回さらに公共交通整備のための議論をしていきたい。
- ・最後に事務局から連絡事項を。

(事務局)

- ・本日は、熱心な議論をいただきありがとうございました。本日、議論いただいた内容、本日欠席の小野委員からも個別に意見をいただいているので、これらを踏まえて今後の市電の機能強化策の抽出を行っていきたい。

(部会長)

- ・本日の議事を終了する。